

令和 4 年度 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人梓友会	代表者	川島 優幸	法人・事業所の 特徴	下田市で唯一の小規模多機能型事業所で、下田市全域を営業範囲としている。現在は、認知症ケアについて力を入れており、「ミッケルアート」認知症プログラムを活用し、様々な認知症周辺症状の緩和にも対応している。認知症高齢者や独居高齢者も多く受け入れており、安心して地域での生活が継続できるよう支援している。
事業所名	小規模多機能型居宅介護 みくらの里	管理者	平山 悦子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	2人	3人	0人	1人	1人	0人	0人	0人	8人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	ご利用者の安全を維持するため、防げる事故については可能な限りなくす取組みを行う。	防げる事故について頻度と原因を分析し、対応策の妥当性を振り返ることで意識的に防ぐことができてきた。	引き続き分析・検証を繰り返し、ヒューマンエラーをいかに少なくするかの努力を続けてほしい。	適切なケアの推進と、防げる事故に対して繰り返し振り返る機会を作り寒山な歯止めにつなげる。
B. 事業所のしつらえ・環境	感染症対策を徹底し、感染症を持ち込まない安全な環境に整える。	職員の感染はあったが、施設内での2次感染は防げ、安心して利用できる環境に整えられた。	体調管理に気を付けながら、感染症対応の継続をしてください。	感染症 BCP に基づいた、訓練・勉強会の実施。
C. 事業所と地域のかかわり	with コロナでの地域とのかかわり方を工夫し、地域の方と協働の介護を実現する。	どんど焼きやあじさい祭り等、地域の行事の参加が行えた。	小規模多機能型居宅介護事業所の本来の目的・役割を果たせるよう続けていってください。	地域の方向けの介護講座や、利用者が参加したい地域行事に活発に参加する。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	小規模多機能だからできた活動や、成功例についても報告していく。	小規模多機能を理解した上での利用相談も増えてきた。	小規模多機能型居宅介護事業所の本来の目的・役割を果たせるような状況が伺え、喜ばしい。	必要時にいつでも支援できる体制を整え、自分らしい生活の実現を支援する。
E. 運営推進会議を活かした取組み	定期的な活動報告と、with コロナでの会議方法の検討	参集困難だったため、郵送での報告・意見聴取とさせていただいた。	施設の状況等、数値以外のものが見えず評価できない。	対面会議の復活と、地域での心配事等についても議題に入れていく。
F. 事業所の防災・災害対策	地域との協働ができなくても、活動の報告は行っていく。	災害 BCP を策定。	施設の状況がわからず評価困難。	B C P に添った防災訓練の実施。